

コミュニティのために私たちが ができること



Social Cohesion Guide for Communities

コミュニティへの帰属意識

家族・学校・職場・スポーツチーム・教会・語学学習や趣味のグループなど、私たちの周りには目的の異なる様々なコミュニティがあります。どんなコミュニティに属していても、ありのままの自分で何かの一員になり、帰属意識や仲間意識を持てることはうれしいものです。

私たち一人ひとりも違って多様性を互いに尊重し、たとえ意見の違いがある時でも折り合いをつけて暮らしていきたいと願う気持ちは同じであり、大切にすべきものです。なぜなら、世の中には「ありのままに生きられない」「自分の意見を聞いてもらえない」と感じている人たちもいるからです。

国内に様々なコミュニティが確立され、社会の多様化が進む今、互いに相手の話を聞き、相互理解を深める必要があります。互いの相違点や長所を認識し、結束を強め、相手との距離を縮めることに励みましょう。

帰属意識

– 具体的にはどんなこと？

あらゆる人が分け隔てなく暮らせる社会では…隣人をはじめ誰もがお互いを知り、理解しています。職場で疎外感を感じることはありません。必要に応じて適切な助けを求めることができます。日常では接点のないような人とも気がねなく話ができます。差別的な言動には異議を唱えることができます。自分の出自や慣習などを臆することなく他者と共有できます。緊急時には、あらゆる人が考慮され、誰ひとりとして見過ごされることはありません。

帰属意識を育てる

– 私たちにできること

より多くの人々がコミュニティへの帰属意識を持ち、多様性を享受し、他者を信頼して積極的に関与し合い、連帯感と相互尊重を実感できようにするため、私たちには何ができるでしょう。

他者とのつながりと信頼

自分とは異なる人と対話を図る。相手の名前をできるだけ正確に発音するように注意する。相手にとって何が大切かを質問し、世界観を学ぶ。

自分の参加するスポーツチームや活動に誘う。友人に紹介する。英語とTe Reo Māori (マオリ語)をはじめ、必要に応じてニュージーランド手話の習得を手助けする。相手の話す言語について知識を深める。

多様性の享受と相互尊重の実現

職場での相互扶助、あるいは様々な違い(人種・性別・セクシュアリティなど)に対する差別解決のため、従業員ネットワークを構築・支援する。全職務レベルにおける多様な人材の起用に取り組むことを事業主に要求する。

職場やその他のコミュニティで差別されている従業員をWhānau(身内)として支援する。

職場や地方自治体、コミュニティグループが主催する差別対策関連の研修を受ける。差別問題に関する意見書を国政や地方議会の議員、又は政府検討委員会に提出する。

連帯感

地域のお祭りやご近所づきあいを深めるNeighbours Dayを企画し、コミュニティに属するあらゆる人(子どもを含む)を招待する。

自分とは異なる人々が主催する地域の行事に参加し、支援の姿勢を示す。

パンデミック中に公民館や宗教施設などの会場をワクチン接種会場として提供する。

地方行政又は国政の選挙前に候補者の公開討論会を主催する。

自分が属すコミュニティと関連性のある別のコミュニティに協同を提案し、共通目標の実現を図る。

自分が属すMarae(集会所)や宗教団体、モスク、教会、同好会などの施設をコミュニティに開放し、自分たちの活動について理解を深めてもらう。

参画

次に挙げるような方法で Te Reo (マオリ語)、Aotearoa ニュージーランドの歴史、Te Tiriti o Waitangi (ワイタングィ条約) について学ぶ。無料オンライン・アプリ (Kōrerorero、Kupu、Ako Tahi) を利用する。Te Wānanga o Aotearoa のコースに申し込む。地元の博物館の歴史展示を見学する。公共図書館から Aotearoa ニュージーランドの歴史に関する書籍を借りる。

人権委員会の公式サイトに掲載されている資料 (Responding to Racism 「人種差別への対応」など) を基に差別的な態度をとる人に対して、勇気ある対話を試みる。

コミュニティへの帰属意識を高めるため、コミュニティの相談役と協議する。

コミュニティ・プロジェクトの運営資金を調達するため、政府諸機関の助成金を申請する。その手始めとして、補助金管理制度又はコミュニティ主導の開発プログラムを通じて COGS (地域組織の補助金制度) や宝くじ協会に申請する。その他の助成金についても情報を集める。

